

令和6年度 久留米市文化芸術振興審議会 第1回会議（要旨）

1 開催日時

令和6年7月2日（水）10時～11時40分

2 会場

久留米市本庁舎3階 303会議室

3 出席委員（50音順） ※7名

井原委員、内野委員（副会長）、翁委員、木藤委員（会長）、日下部委員、西依委員、前原委員

4 欠席委員 ※3名

植田委員、片山委員、矢次委員

5 事務局 ※11名

市民文化部 廣松部長、古賀次長 市民文化部総務 辻森主任主事

文化振興課 大鶴課長、中山課長補佐、中園主査

久留米シティプラザ事業制作課 平木課長

久留米シティプラザ総務課 江越課長補佐

文化財保護課 白木主幹

公益財団法人久留米文化振興会 園内魅力推進課・企画広報課 古賀課長

美術館総務課 眞子課長

6 議事次第

1 開 会

2 委員紹介（委嘱状交付）

3 会長・副会長選任

4 会長・副会長挨拶

5 議 題

（1）久留米市文化芸術振興基本計画における各事業の実績及び計画について

（2）令和6年度市民意識調査及び市政アンケートモニター「くるモニ」の調査項目について

（3）次期基本計画の策定に向けた今後のスケジュールについて

6 その他

7 閉 会

議事録

1 開 会

- 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

2 委員紹介（委嘱状交付）

- 委員紹介、委嘱状交付
- 事務局（久留米市及び（公財）久留米文化振興会の担当者）を紹介。

3 会長・副会長選任

- 事務局より、会長に木藤恒夫委員、副会長に内野博夫委員を提案し、出席委員全員が了承。

4 会長・副会長挨拶

- 木藤会長、内野副会長より挨拶。

5 議 題

（1）久留米市文化芸術振興基本計画における各事業の実績及び計画について

- 事務局より資料1、2に基づき、久留米市文化芸術振興基本計画における各事業について、令和5年度の実績及び令和6年度の計画・進捗を説明。

質 疑

○ 木藤会長

- ・ 資料2の25ページ～27ページについて、以前より、文化芸術の活動をする人のリストがあれば、各事業に活用しやすいという話があったと思う。情報収集の方法や予算確保が難しいということだったと思うが、活用に向けてぜひ検討してほしい。

○ 内野副会長

- ・ 26ページ「久留米シティプラザ 普及啓発事業」について、予算化されていないように見えるが、行政の関わりはどうか。

● 事務局

- ・ 26ページ「シティプラザ 普及啓発事業」の予算は、16ページ「久留米シティプラザ 自主事業」の予算に含んでいる。シティプラザとしては、鑑賞事業だけではなく、特に将来の文化芸術の担い手である子どもや若者を中心とした普及啓発の取組が重要だと考えており、自主事業としてしっかりと予算をかけて実施している。普及啓発の主な事業は、社会課題をテーマとする作品の上演を「知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ」として年2回行っており、劇場への来館率が少ない若者向けに作品の鑑賞とプレレクチャー、感想シェア会を組み合わせたユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」等を実施している。

○ 西依委員

- ・ 15ページ「（公財）久留米文化振興会事業」について、高牟礼会館、芸能会館の管理運営があるが、芸能会館はどのような人が利用しているのか。高牟礼会館は古いが、茶道の利用などで重宝されている。

- 事務局
 - ・ 芸能会館は、管理運営にあっていた芸能協会が令和5年度末に解散したため、令和6年度から久留米文化振興会に管理してもらうことになった。能舞台があるため謡曲の利用が多いが、他の目的でも利用してもらえるよう考えていきたい。
- 井原委員
 - ・ 障害を持つ人に文化芸術に親しんでもらうことが大事と思うが、久留米市では障害を持つ人のための文化施策はあるのか。県では、障害者の絵画の展示会などをやっている。
- 事務局
 - ・ 本基本計画では、障害者や高齢者など、幅広い市民が文化芸術に親しめるよう取り組んでいくことと記載している。資料2にある27事業の中に、障害者のための文化事業というものはないが、各事業の中で音声ガイドやポータブル字幕機を導入するなど、目や耳が不自由な方が文化芸術に触れやすい環境づくりなどに取り組んでいる。また、「学校への芸術家等派遣事業」でも、特別支援学校への派遣を優先的に実施するようにしている。障害者に関する法改正もあり、次期計画の策定では、より障害者や多文化共生の視点を持った内容を検討していく必要があると考えている。
- 木藤会長
 - ・ 以前、東京文化会館で、ろうあ者を対象としたベートーヴェン「運命」の演奏会をやっていた。例えば、そういう鑑賞事業ができるような取り組みもいいと思う。
- 内野副会長
 - ・ コーディネーターが不足しているということだが、旅費など手当は出ているのか。手当の面がコーディネーター不足の理由になっているのではないか。
- 事務局
 - ・ 旅費など必要な手当では支給している。コーディネーターは、平日に学校へ出向いて事業のうち合わせをすることが多いため、基本的に、平日に動ける方が条件になっている。特にコロナ後、平日に動ける人の数が減ってしまい、現在までなかなか数が増えない状況となっている。今年度の養成講座では、コーディネーターを続けていただくために、少しでも不安が解消されるよう、活動内容をより丁寧に説明することなどを、検討していきたい。
- 内野副会長
 - ・ 14ページの美術館への子どもの鑑賞について、中学生よりも小学生のほうが、美術教育では大事だと思う。共働きが増え、なかなか家族でも美術館に行くことが難しい。欧米では、小学生の頃からルーブル美術館に行って、トークやスケッチをして美術に触れている。そうした年齢層を下げた鑑賞事業をぜひやってほしい。
- 翁委員
 - ・ 資料2の各事業の課題は、どう捉えたらよいか。色々な課題があって、それを解決するために他の事業のここで予算を組んで補填するとか、計画全体から見た上での次の整理や、考え方などはあるのか。
- 事務局
 - ・ 各事業のシートにある課題は、現時点での、事業を実施する上での課題を記載している。事業は担当課で予算も分かれており、すぐに解決できる課題ばかりではないため、昨年と同様の課

題が記載されている事業もある。こうした課題を常に認識した上で事業を実施し、次年度の計画を検討している、という視点で見ていただきたい。

○ 木藤会長

- ・ 今の、各事業の課題についてのご意見は、次の計画を策定する際にも生かしていきたい。

(2) 令和6年度市民意識調査及び市政アンケートモニター「くるモニ」の調査項目について

- 事務局より資料3, 4に基づき、令和6年度市民意識調査及び市政アンケートモニター「くるモニ」の調査項目を説明。

質 疑

○ 内野副会長

- ・ アンケートでは、選択肢の並びは意図的でないように見える方がよい。今の案では、インターネットで十分という選択肢があって、リアルを求める選択肢が続く順番になっているので、逆にした方がよいと思う。4～7の選択肢を前にして、1～3の選択肢が後に来るように。

○ 木藤会長

- ・ あるいはランダムに並べてもいいかもしれない。

○ 翁委員

- ・ 選択肢のルールを決めると、リアルからネットの順になる、と。前のページの間1, 間2にあるような、ウェブ上の選択肢がここでは出てこないが…。

● 事務局

- ・ 資料4でいうと、まず、間1から間4の4つの案のうち、2問をまず選んでいただきたい。事務局としては、間1と間2は、市民意識調査の他の分野の設問からもある程度拾える内容なので、できれば間3と間4で、くるモニを実施したいと考えている。間3、間4の案でよければ、その内容についてさらに意見をいただきたい。

○ 木藤会長

- ・ 事務局の説明にあったように、間3と間4でいいと思う。

○ 日下部委員

- ・ 間3については、「インターネットを利用した様々な鑑賞形態が普及していますが」と、バイアスがかかっているのでは、回答の行き先が、アフターコロナの不利な結果になるのではないかと。「インターネットを利用した」と「リアル」を同じと捉える若者も多い。本来の生の鑑賞・体験を質問する設問にしたらどうか。

○ 翁委員

- ・ 何のためのくるモニか、回答結果でどう事業に反映して予算取りにつながるか、などの考えでも絞られてくるのではないかと。

● 事務局

- ・ くるモニを実施する趣旨は、現計画に定めた総括目標に対する達成度を、毎年度確認していくためである。ただ今回は、市民の鑑賞・活動体験を問う毎回の設問に加えて、次期計画の策定の参考にするため、ネットとリアルが共存している文化芸術の現状について、市民の皆さんが

どう感じているか、ということを探ねてみたいと考えている。今回のくるモニの回答が各事業の予算にすぐさま反映されるなど、事業評価に結び付くものではないので、今後の計画の参考にする設問を選ぶ、という視点でご意見をいただきたい。

○ 木藤会長

- ・ それでは、問3、問4の設問でくるモニを実施するということで。時間もあまりないので、設問の順番などについては、事務局に任せるということにしたいと思うが、よろしいか。

(3) 次期基本計画の策定に向けた今後のスケジュールについて

- 事務局より次期基本計画の策定に向けた今後のスケジュールについて、資料に基づき説明。

質 疑

なし

6 その他

- 次回の審議会開催、その他の事務連絡

7 閉 会

○ 木藤会長

- ・ 閉会の挨拶

以上